

バビロン軍がエジプトのファラオの軍隊が進撃してきたため、一時撤退した時のことです。エレミヤは従兄弟からベニヤミン族の所領であるアナトの畑を買い取るように頼まれました。エレミヤは銀17シケル(銀約100g)を支払い、購入証書とその写しをバルクに保管するように命じました。エレミヤは必ず祖国が回復する日が来ると信じて、それを実行に移したのです。



アナトへ行こうとした時、守備隊長が「バビロンに投降しようとしている」という嫌疑でエレミヤを捕らえました。エレミヤは打たれ、書記官ヨナタンの家の円天井のある地下牢獄に監禁し、長期間拘留されました。

また、役人たちがエレミヤは「都は滅びる」と士気を挫くような言葉を言いふらしていると怒り、王に死刑を求めますが、ゼデキヤは投げやりになり、役人にエレミヤを任せました。そこで役人はエレミヤを監視の庭にある水溜めに吊り下され、エレミヤは泥の中に沈みました。

この時、クシュ人の宦官が王にエレミヤの救出を訴えました。ゼデキヤはエレミヤを連れて来させ、密かに 主から何か言葉があったか(37:17) と問いました。エレミヤは前と同じく バビロンの王の手にあなたは渡されます と答えました。ゼデキヤは神の奇跡があるという言葉 を待っていたのですが、エレミヤの真実の言葉は聞きませんでした。ただ、水溜めには戻さず、監視の庭に拘留し、毎日パンを一つ届けさせたといひます。

ゼデキヤの治世9年、バビロン王の全軍が都を包囲して、王国の末期の時でありました。ゼデキヤは使者を遣わし、エレミヤを連れて来させ、命の保障を約束し、エレミヤの言葉を求めました。エレミヤは降伏するなら、命は助かり、都は火で焼かれずに済む。また、あなたは家族と共に生き残る(38:17) と言いました。ゼデキヤは既に投降したユダの人々になぶりものにされることを恐れていると告白します。エレミヤはゼデキヤを励まし、主の声に従うよう勧めました。ゼデキヤはこの会見を秘密にし、何の打開策も取らず、再びエレミヤを、監視の庭に留め置きました。ついに治世11年4月、都は破られ、ゼデキヤは捕らえられ、両眼を潰され、バビロンに連れて行かれました。

エレミヤはバビロンの親衛隊の隊長によって監視の庭から無事に解放され、総督として立てられたゲダルヤに預けられました。ゲダルヤはユダの地に残された貧しい人々にバビロンの王に仕え、この地の畑で働くように。駐留軍には私が対応する と言って、民の指導者として働き始めました。ところがアンモンに亡命しようとしていた王族の一人が部下と共に、ゲダルヤを暗殺し、駐留軍も殺しました。さらに残留民をも殺戮し、また、捕虜としてアンモンに連行しようとした。この悪事を知ったヨハナンははじめ軍の長たちは、追いかけて、捕虜となった人々を取り戻しました。けれども、バビロンの駐留軍を殺してしまっていたため、報復を恐れ、皆はエジプトに逃避することになりました。エレミヤに民の歩むべき道を示してほしいとヨハナンたちは願いました。エレミヤは10日間祈りました。そして もし、あなたたちがこの国にとどまるならば、わたしはあなたたちを立て、倒しはしない。わたしはあなたたちにくださった災いを悔いている。今、あなたたちはバビロンの王を恐れてはならない。わたしがあなたたちと共にいて、必ず救い、彼の手から助け出すからである。(42:10) と告げました。ところがヨハナンははじめ全員が偽りの預言であるとして聞き従わず、ユダの地に留まろうとせず、避難先から引き揚げてきた残留民をすべて集め、エジプトへ向かいました。エレミヤもその民の群れに合流せざるをえませんでした。エレミヤはエジプトでも エジプトに住むユダのすべての人よ、主の言葉を聞け。エジプト全土のユダの人々の中に、『神である主は生きておられる』と言って、わたしの名を口に唱えて誓う人はひとりもなくなる。見よ、わたしは彼らに災いをくだそうとして見張っている。エジプトにいるユダの人々は、ひとり残らず剣と飢饉に襲われて滅びる。剣を逃れてエジプトの地からユダの国へ帰還する者の数はまことにわずかである。そのとき…わたしの言葉か、彼らの言葉か、どちらが本当であったかを悟るであろう(44:26)と悲しみつつ、預言をしています。